

活動名：第8回福島空港公園杯フットサル大会

日程：平成26年10月18日（土）～19日（日）

会場：福島空港公園 緑のスポーツエリア

参加：FC Alliezセカンド トップ6クラス 6名

帯同：渡邊コーチ

報告：渡邊コーチ

結果：11位（16チーム参加）

予選リーグ

●喜多方東コラソン ●小野FC（A） ●棚倉FC

フレンドリートーナメント

○富田SSS（B） ●リガーズFC ○小野FC（A）

私が帯同した第8回福島空港公園杯フットサル大会について報告します。

まずは、今回の「FC Alliezセカンド」ことチームWatanabeのメンバー構成は、6年生男子2名、6年生女子3名、5年生男子1名です。もう少しこのチームWatanabeの説明をします。今回は、体格の良い選手が多くチームWatanabe史上最強メンバーでした。しかし今回は、これから戦う上でクリアしなければならない課題がありました。それは異性。チームWatanabe結成以来、初となる男女混合チーム（3対3）です。これが中々やっかいなものでした。思春期による恥ずかしさなのでしょう。仲間なのに目を合わせない。話をしない。近づかない。まあ、なんとも、お互いお客様状態。アップでの1対1でも、お互いボールを奪うために体をぶつけ合わない。選手たちの気持ちも分からないでもないです。これでは何をしにここまでできたのか分からない。そう思いまずは、“仲間”について話をして、次に体の入れ方の話をしました。サッカーをする上で接触プレーはつきものです。相手選手に体をぶつける。そうしなければ、相手を自由にさせてしまいます。よって、相手が男の子だろうが女の子だろうが、まずは、FC Alliezの代表選手としてこの場に来ている以上、そのようなことでは戦えないので、自分の体を上手に使い相手を自由にさせないことをいつもより多く選手たちに伝えました。

さてここからは、チームWatanabeの激闘を振り返ります。今回、私が選手たちに最初に要求したこと、それは“スピード”です。スピードと言っても走る速さではありません。①考えるスピード ②判断するスピード ③ボールのスピード この3つのスピードを要求しました。フットサルのコートは狭く、ゆっくりもたついているとあっという間に相手のプレッシャーを受け、自由なプレーが出来なくなります。そのために1秒でも早くシュートチャンスを生み出す。それが今回の最大のテーマでした。

予選リーグ

1試合目

● 0-1 喜多方東コラソン

立ち上がり早々、考える・判断・ボールのスピードが遅く失点。出鼻をくじかれた感がありましたが、その後は、良い形からシュートまで持って行くもシュートがゴールの枠を捉えられず、試合終了。

2 試合目

● 1－2 小野FC (A)

1 試合目の反省をふまえ望んだ予選リーグ 2 試合目。少しずつですが、味方選手のポジションを意識するようになり、みんなが連動して動き両チーム最初のピックチャンスを迎えるも得点ならず。その直後、自陣で相手チームがハンドの反則。得たFKをみんなが準備していない状況で仲間へパス。そのボールをハンドした相手選手に奪われGKとの1対1を確実に決められてしまいました。

その後同点に追いつくもすぐさま逆転され試合終了。

2 試合目も良いサッカーはするが点が入らないという状態が続きました。

3 試合目

● 0－4 棚倉FC

苦しい台所事情により、主力選手をGKで望みました。これが全てです。何本かあったチャンスを逃しました。これで3 試合連続です。



初日の感想

3試合とも良いサッカーはしていましたが、自分の技術に自身が無いような雰囲気の中で試合に臨んでいる選手が見受けられ、その結果、テーマである「スピード」が遅くなり、苦しい状態でシュートしていました。その原因は、ハイプレッシャーでもあり、個々のスキル不足です。やはり、トラップ、ドリブル、キック最低この3つは、どんな状況でも常に100%発揮できるよう練習することが必要と感じました。



フレンドリートーナメント

1回戦

- 15-0 富田SSS (B)

相手チームが低学年ということもあり、心の余裕がそのまま結果に出た形です。ただ、この試合で自分のシュートまでの形を掴むきっかけとなった選手がいました。

2回戦

- 0-5 リガーズFC

前半は0-1で折り返しましたが、相手選手に何度も裏を取られてピンチの連続でした。後半に向け、マークの確認などを指示しましたが、力尽きました。良い攻撃をするも…といった感じでした。

11位・12位決定戦

- 5-1 小野FC (A)

今回のテーマを全員が最後までやり続けました。その結果です。仲間を信頼し、ボールを渡し、受けた側も責任と勇気をもってチャレンジする。みんなが連動し、より良く試合をするため、自分たちが楽しくサッカーをするために意見を出し合い、考え・判断した結果の勝利でした。



2日の感想

初日は、やっているサッカーの質は良かったのですが、結果として点が取れずにフレンドリートーナメントになってしまいました。

2日目は、気持ちを切り替えて敢闘賞を狙い戦いに望みましたが、2回戦で敗退。決めるときに決めきれない。初日と同じような形での敗戦でした。ちょっとプレッシャーがかかるとミスしてしまう感じでした。

感想

全体をとおして感じたことは、今回のメンバーは、真面目で賢い選手が多いと感じました。正直過ぎる。次のプレーが相手に読まれている。まさしく正直者が馬鹿をみるといった感じですが、人としては素晴らしいことです。しかし、サッカーでは、もう少しずる賢くならなくてはなりません。もっと自分たちがプレーしやすくするために“相手を騙す”ということ。右に行きたいのならば、左に動いてから右に行くといったことです。フェイントです。もう一つは、甘え。サッカーが好きかと問えば、みんな好きだと言います。コーチとして嬉しいかぎりです。それでは、どれだけの選手が大好きなサッカーを努力しているのか。このことを判断する簡単な方法。それは、リフティング。昨日、今日、練習しただけでは、決して伸びることのないリフティング回数。僕も私も一生懸命頑張っていますと胸張って言い切ります。ならば聞きましょう。みんなのリフティングの回数を。トップ6クラスの基準回数である100回を超えている選手は、6名中2名。これだけ回数の差があります。単純に努力の差です。サッカーを始めた時期や体の成長具合など、個人差はあると思いますが、それを理由に逃げてはいないですか。みんなわかったと思います。「やれば出来るの前に、やったようになる」ということを。練習で本気にならない選手が、大会で実力を100%出せるのか。たまには出来るでしょう。しかし安定はしないはず。そうすると、どうなるかはお察しのとおりです。大事なのは日常生活からですよ。そして、今回のチームWatanabeのメンバーは、今持っている実力を全試合において、出し切ってくれたと思います。過去のチームWatanabeと比較すると今回のメンバーは、意図を持ったプレーを随所に見せてくれました。失敗を恐れず、チャレンジし続けたことは、一番の収穫です。そして、結果が伴わなかった原因それは、個のスキルが不足していたということ。選手たちには、自分のアイデアを実現するためのスキルを身につけて欲しいと思います。プレッシャーの無いときでは十分プレーできるが、少しプレッシャーがかかると思うようにプレー出来ない。これでは、大好きなサッカーを楽しむことが出来ません。今しかないこの時期だからこそ、個々でスキルアップを図りましょう。

攻撃のコンセプトは選手たちがよく理解し実践してくれたので、多くのチャンスを生み出すことができました。あとは最後の仕事。ツメが甘く白星を取りこぼした結果、優勝を逃してしまったのは、私の反省点です。

最後になりますが各チームの保護者、コーチ、大会運営の(公財)県都市公園・緑化協会 空港公園関係者の皆様、二日間ありがとうございました。

未だ勝利の方程式が解けず 黒星の数だけ白髪増える ～カリスマ迷将 渡邊☆～